



人

ひと - HITO -

世界的に有名な選手の試合も テニスを始めたばかり人の試合も 公平に対処するのが私たち審判員

宮川美知子さん(硬式テニス・公認審判員・レフェリーB級)

「自分を律し、気持ちが強くないと何ごともしない」と自分に厳しい目を向ける反面、「続けられたのは家族などの協力があったからこそ」と周囲の人に感謝する宮川さん

ジャパンオープンテニスや2月に開催され記憶に新しい東レ・パン・パシフィックと言え、世界トップレベルの選手が競い合う国際大会。それらの試合で審判を務めているのが、北入曾にお住まいで自身もプレイヤーである、公認審判員B級の資格をお持ちの宮川美知子さんです。

18年前にテニスを始めた宮川さん、現在市内のテニスクラブに在籍し、毎週コートに立っています。熱心な練習は功を奏し、プレイヤーとして徐々に力をつけるとともに、テニスに深く関わって来ました。16年前に、先輩に勧められて日本女子テニス連盟埼玉県支部に入り、9年前に審判部に入部、持ち前の熱心さはここでも発揮され、7年前にC級とB級公認審判員の資格を、3年前には公認レフェリーB級の資格も取得しました。

硬式テニスの大会では、大会の規模により採用される審判員の数は異なりますが、試合を公正かつスムーズに運営するために、レフェリー、チーフオフィサー(主審)、ラインアンパイア(主審)、ボールパーソン(審判員)などを置いています。宮川さんは審判員を務めた当初、選手が日ごとの成果を存分に発揮し観客にも、良い試合だったと言ってもらえるようなジャッジができるよう、トップレベルの選手が参加する、「サーキット」という全国展開の試合で線審を積極的に務めました。その経験で、審判としても繊細な世界であり、体調の善し悪しや心配ことを抱えているだけで判断が鈍ってしまふこともあると学び、日ごとの体調管理に気をつけ、平常心を保てるよう心がけるようになったと言います。



2002年のジャパンオープンでの審判仲間(左から3人目が宮川さん)

現在注目しているのは、10月24日〜27日に開催される第59回国民体育大会、地元の高校生がボールパーソンとして、私や仲間たちは、ソロチエアンパイアとして、川口市とさいたま市の会場で大会をサポートします。県テニス協会ではそのための審判員の育成や訓練にも積極的に取り組んでいます。こうしたテニス愛好者や関係組織の努力が、大会をよりいっそう盛り上げると思っています」と期待しています。

さまざまな試合の審判を務めた経験から、審判員となったことで、試合の見方やプレイヤーとしての考え方が変わり、テニスの技量が高まったと思います。選手にとって、審判の経験はとても大切です」と宮川さん。今後は若い審判員がもっと増えたらうれしいですね」と朗らかに笑いました。

ものづくり 狭山人づくり の産業



新しく、広くなったJAいるま野共販センターでは、毎日集・出荷が行われます

堀 兼地区に完成し2月25日、狭山の農産物の集・出荷場として稼働したJAいるま野共販センターが期待されています。

農家は従来、ノウハウや得た情報を自家の生産だけに生かす気質がありました。そこでJAいるま野野菜部会長は、共販センターが広がったのを機に、個々ではなく組織で狭山の農業を盛り上げるために情報を集めて公開し、農家みんなで考え、一緒にゴールを目指すための拠点としたいと考えています。「農家のみんなが出荷に来て、お茶を飲んでちょっとひと息入れながら、世間話をする。そんな風に、コミュニケーションを深める場が身近にあったら、もっと狭山の農業が活気づき、ひいてはまちの元気につながると思うのです」そして「狭山の農産物はいきいきしてる、と言われるような作物をどう作るか、若い後継者から経験豊富な親父さんまで、農家みんなで考え、協力していきたいです」と語ります。今後は共販センターから、おいしい野菜などの農産物と一緒に、まちの活力が発信されます。（JAいるま野野菜部会長・諸口栄治さん）

くわがやま 自治会

新狭山三丁目自治会

新狭山三丁目自治会は、新狭山駅を含みその南側に位置しています。昨年は100戸建てのマンションが完成し、会員数は500余名となりました。

2月8日、「新狭山三丁目ミニ文化祭」を新規事業として自治会館で開催しました。この文化祭のために、小学生から高齢の方まで39名が絵画、絵手紙、手芸、生け花、写真、書など60点を超える作品を寄せてくれました。そして当日は100名を超える来場者があり、口々に「隠れた才能の持ち主が多いな」と感嘆の声があがりました。その後のけんちゃん汁や甘酒も好評で大いににぎわい、多くの皆さんと交流することができました。



Hello ハロー 仲間たち

Vol. 271

子育てガイド「チャイルド」 編集委員会



「育児中って、必要な情報だけ早く知りたい」「子どもが泣いたらパソコンを見る暇もないし」「そんな思いを持ちながら、今、子育てが落ち着いてきた私たちが、やるつもり」と思い立ったのが、育児中ママたちのための情報誌「作りです」。

半年間企画を練り、昨年9月に「子育てガイドチャイルド」創刊号を発行。現在は月3回程度、水野公民館に集まってワイワイにぎやかに取材や編集をし、毎月発行しています。

編集方法を学びながら、必要な情報はもちろん、経験者ならではの知恵と子育て真っ最中の皆さんの声をたくさん盛り込んだ紙面です。児童館や保健センターなど子どもに関係する公共施設にありますので、手にとってみてください。

私たちの手作りの情報誌が、なかなか外に出られないママの「最初の一步」のきっかけとなればと願っています。みんな子どもを遊ばせながら活動しています。興味のある方は遊びがてら、気軽に水野公民館をのぞいてみてください。

問合せ

鈴木真奈美さんへ

☎2958 7589